

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300907		
法人名	医療法人社団 博文会		
事業所名	グループホーム永の郷		
所在地	熊本市南区城南町永1209		
自己評価作成日	R2. 1.28	評価結果市町村受理日	令和2年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和2年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて、ご利用者の個性をいろいろな角度から考察し、その人らしい生活ができるような取り組みができていていると思う。また、ご家族からも見慣れた職員のため安心感があり、信頼関係もある程度築いていると確信している。環境面では広い敷地で田園地帯に囲まれる静かな環境にあるため、ゆったりとした時間がながれている。敷地内のグラウンドでは、グラウンドゴルフ大会を年4回開催している。春には満開の桜の下で、利用者様、職員共に花見を楽しめている。七夕交流会では、近くの小学生が毎年慰問に来られて私たちを楽しませてくれる。季節の行事も盛りだくさんで年間を通し楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して経年、管理者の変更はあるものの、開設当初からあまり変わらない職員体制は、入居者や家族への安心感や信頼感を与えている。最高齢98歳の入居者という現状でもホーム内では車椅子を使用することなく、職員の持つケア力が発揮され、入居者の傾眠される姿には安心した様子が見られるとともに、和やかな日常生活であることが垣間見られた。また、地域住民の活性化(グラウンドゴルフ大会等)や、子どもから高齢者までの接点としての併設のグラウンドは地域への還元の一環や入居者との交流の場として生かされる等地域の中での確固たる基盤が築かれている。今後の入居者(重度化傾向や高齢化)ケアとして、看取りまでを視野に在宅診療が検討されており、理念で謳う「本当の家族…」として、今後の体制に大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが地域の中で自立した幸せな日常生活をおくる」ための文言が理念の中で謳われており、毎朝復唱することで、理念の共有を図りながら実践につなげている。	毎朝申し送り時に唱和することで一日をスタートするとともに、毎月目標を立てながら理念の実践に真摯に取り組んでいる。管理者の変更はあるものの、あまり変動の無い職員体制という顔馴染みの関係性の中で和やかに過ごされている。理念の中で謳う“自立した幸せな日常生活”を98歳という超高齢にあっても職員の付き添いによる独歩や、新聞を読まれる様子に表出しており、理念を具体的に示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として会報の回覧、併設グラウンドの地域への開放、また当法人主催のグラウンドゴルフ大会の開催、地域運営推進会議メンバー等地域に根ざしている。	自治会に加入し、回覧による地域の情報をリサーチし神社の清掃活動への参加等地域の一員とし活動している。また、併設のグラウンドは近所の子供たちの遊び場や住民のウォーキング等に開放するとともに、グラウンドゴルフ大会の主催や地域のどんどこやの会場としての提供が入居者と地域との接点として生かされており、この地で確固たる基盤が築かれている。保育園児(七夕会)やボランティアとの交流も行い等入居者の非日常の彩として生かされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議のメンバーに自治会長、民生委員、老人会長、保育園園長、グラウンドゴルフ協会役員等の方々がいらっしゃるので、地域の様々なケースを皆で共有するような取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は6回実施しているが上記のメンバー以外に地域包括支援センター、有識者の方々と常に議題についての検討をしている。	定期的に開催する運営推進会議は、ホームの現状や地域交流等の報告とともに、質疑応答がなされ、災害時(水害)対策での意見交換や、身体拘束適正化検討委員会も兼ね、意見を交わしている。また、地域高齢者の情報等挙がる等有意義な会議である。委員からの要望により18:00からの開催を17:00からに変更しているが、夕刻に関わらず毎回参加される委員の皆さんには敬意を表したい。	短時間の中での会議とはいえ、充実した内容であるが会を重ねると形骸化しかねない。時間を有効に使うために、ホームや地域の課題等テーマを絞って話しを進めることを検討いただきたい。委員との話し合いをサービスに反映されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センター中心の地域ネットワークには常に出席し、協力関係を築いている。	包括主催の地域ネットワークへの参加や介護相談支援員制度を利用したり、介護保険更新を代行し調査への立会い時の情報発信、運営推進会議を通じた情報リサーチ等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所は「NO虐待・身体拘束」を掲げており、研修会に参加したり、職員勉強会・委員会を開いている。	身体拘束適正化として指針を見直し、新入職員にはその都度研修を行うとともに3ヶ月毎に理事長・管理者・施設長をメンバーとして委員会を開催している。また、勉強会では、言葉使いや食事介助、移乗介助、車いすの速度等を職員に身に覚えがないか等具体的な話し合いを行っている。入居者の落ち着いた生活のなかでも、職員は見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修では、県のライブラリーの資料での勉強会や包括主催の講演会での弁護士等の講演に参加したり、ニュースなどで取り上げられた事件を朝礼での議題にし、常に意識を持つような取り組みを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中にも直系の家族がいない方もおられるので、いつも考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にお会いして、こと細かい説明をし、できるだけご家族の不安、疑問にお答えしているつもりである。契約時もかなりの時間を要している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の家族会開催の場で、できるだけオープンに意見交換ができるような会雰囲気作りにつとめている。又、意見箱を設けご家族の思いを少しでも理解出来る様になっている。	意見箱や家族会での意見交換の他、訪問時に何かありませんかと問いかけており、入居者の落ち着いた生活ぶりに満足との声が上がっている。また、状況の報告や永の郷便りによる情報発信により共有化とし、ホーム内外の苦情相談窓口を明確にし、家族に説明している。	運営推進会議には家族の参加は無いようである。2ヶ月毎の家族会の中で運営推進会議の情報を発信しているが、時には家族へ参加を依頼されることが望まれる。家族の意見を踏まえた話し合いや家族を交えた話し合い等視点を変えて行う事で更なるサービス向上につながるものと期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内勉強会の場では必ず今の職場の現状を皆に一言ずつ発言してもらえるようにはしているが、なかなか本音が言えない場合もある。個々に面接し皆の意見を聞く場を設けている。	理事長や管理者による個別面談をにより職員の本音を引き出し、アンケートとして自己を振り返る機会を作っている。また、毎月の勉強会の中で職員が発言する機会を作り、理事長もホームに訪れ、職員とのコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も週一回のペースで事業所に来て、職員とのコミュニケーションを図り、改善に努めている。また、社会保険労務士も月一の間隔で来て、職場環境・条件についての話し合いがなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会は月1ペースで実施している。また、行政・社協・包括・ブロック会等の勉強会には、特に積極的に参加しているし、講演会にも必ず出席するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会にはできるだけ出席するようにしている。情報交換の場としてはある程度の効果を感じる。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前にかかなりの時間を要して、情報を集めるように努めている。また、ご本人への面談は必ず実行している。さらに契約時にもあらためて話しを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所されてからのほぼ一ヶ月はご家族にも特にご協力をしていただき、職員全員が緊張感をもって細かい観察につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念をしっかり理解体感してもらっているので、ご本人には家族と同様の意識で生活できていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開かれたホーム作りを目指しているので、いつでも気軽にご家族には来ていただき、職員がご家族のお尋ねにだれでも回答できるようにしているつもりである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者の供養や墓参りまた年の節目時はできる限りご家族や馴染みの方々と時間を共有していただいている。しかしご入居期間が長くなっていくと年々少なくなってきた。	2ヶ月毎の家族会が入居者・家族との接点として生かされ、親戚の訪問や、家族による墓参及び初詣、選挙投票等家族の協力も得ながら馴染み及び社会性等を継続させている。また、年々馴染みの人との関係が希薄になる状況も見られる中で、七夕会や豆まき等の慣習の継続や脳トレと一環として昔の話等を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一回程度皆様で外出したり、日課の中にもリハビリ体操、今月の歌を3曲程度歌い一緒に暮らす連帯感を感じていただいている。また、席の並びにも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前のご相談にも気軽に応じ、転居先への情報提供に協力している。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今やりたい希望を叶えられるように、迅速に対応している。例えば、買い物、帰宅等もちろん帰宅時にはご家族と調整をはかっている。	職員は日誕生日には好きな食べ物を聞き取りし提供する等々の関わりの中で思いを引き出し、意思疎通の難しい場合には入居者に分かりやすい会話での聞き取りや選択肢を投げかけたり、行動(そわそわ等)により推察しながら、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのお話を尊重し、本人とのコミュニケーションや行動の中から今の生活をより本人の意向に近づけられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の1日の生活動向の観察に主眼を置き、起床時のバイタルチェック、レク等の参加状況、生活リハ依頼の引き受け方などから現状把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も皆様の状況を細かく把握し、昨年に比べよい介護計画ができているように思います。モニタリングは各職員からの記載をもとに計画に反映させている。	毎月のモニタリングや職員とのカンファレンスによりプランを作成し、事故によるカンファレンスや退院後のプラン見直し等現状に即したプランが作成されている。自分のペースでの生活の継続やストレスケア対策としての個別レク等個別的且つ詳細なプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員の気づきや工夫、情報の共有を密にし、日々実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆様には、いかに自由な空間の中で生活していただくかを職員間のテーマに取り組んでいるのでかなりの部分既存のサービスにとらわれないケアを実践していると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係の強化などで有効な社会資源を上手く活用しながら皆様方の豊かな暮らしを楽しんでいただける実践につなげたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切にし、家族、職員連携での通院支援、協力医の往診を仰ぎながら、迅速に対応している。	入居に際しももとのかかりつけ医での継続や協力医療機関を説明しており、家族の希望での受診体制としている。受診にはホーム側で対応しているが、家族と病院で待ち合わせる等連携しながら適切な医療を支援している。また、日々バイタルチェック等により健康管理を徹底し、異常の早期発見に努めている。月2回の訪問歯科による口腔ケアも取り入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の他事業所の看護師に迅速に診てもらったり、相談して適切に受診、看護を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係の方とは密に連絡はとっている。職員も頻回に交替で面会し、洗濯物の交換や状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅診療、訪問看護を抱えている病院等との話し合いをしながら、ターミナルケアへの一歩をふみだしている。	ホームの方針として医療中心となる場合は入院とし終末期ケアは現在は行っていないが、家族としてはホームで出来る限りお願いしたいとの意向も聞かれており、現在、在宅診療等での看取りケアが検討されている。また、救命救命等AEDを使用した勉強会が行われている。	重度化や終末期ケアについての方向性を全員で検討されることが望まれる。ホームでできる事、出来ないことを明確にし、家族との話し合いを進めていただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の応急処置は学習できている。しかし、急変時は管理者や計画作成担当者が連絡を受け、救急搬送に同行するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練を行い職員間で避難方法、道順の共有ができています。又、地域運営推進会議で話し合い協力を願っている。	災害時避難訓練として避難経路を確認し、避難所に行くことのメリット・デメリットを検討している。また、運営推進会議の中で水害等の話し合いを行い、他の事業所との連携等も検討している。職員は、日々火元をチェックし、備蓄(食料・水等)を用意し有事に備えている。	昨今の自然災害の脅威は計り知れないものである。いつ何時でも慌てずに対応できるよう、今後も机上訓練とともに、地域との連携方法等運営推進会議の中で具体的な話し合いを行われることが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの個性や特性を見つけ出し、出来ることを自身でやっていただくことこそ人格の尊重につながると考える。	“あいさつの徹底”等を月目標に掲げるホームは、身体拘束廃止の一環として言葉使い等を検討し、親しみのある言葉使いに徹している。守秘義務や個人情報の取り扱いについて、職員へは入職時に契約書を交わしている。入居者も個として捉え、プライバシーを保ち、尊厳の維持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にすること、共同生活を楽しむことは相反する場面もあるが、業務優先にならないように、いつも葛藤しながら取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、食後の着替え、入浴後の爪きり化粧、髭剃り、外出時の身だしなみ等いろいろな場面で支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様のできる範囲で準備、片付けを一緒にしている。また、個々に応じた、食事形態を提供している。	昼食は主に専任者が調理に関わり、入居者は夕食の下ごしらえや盛り付け、果物の切り分け等できる事で力を発揮している。調理の音や匂いが食の意欲を引き出す環境とともに自力摂取にこだわり、普段はペースト食でも内容によっては普通食として時間をかけ食事を楽しまれる等個別に支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の準備は、ご利用者の個々の状態に応じた食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員、ご家族とも理解しているので、力を注いでいる。また、月に2回の訪問歯科による口腔ケアを受けられる方々もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンが把握できているので、ほぼ実践できていると思う。要介護5の方も日中はトイレでの排泄が基本です。	職員は日々の関わりの中で排せつのタイミングをつかみ、声掛けや誘導により全員が日中はトイレを使用されている。昼夜の排泄用品の使い分けやポータブルトイレ等個々の排泄状況を把握しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンはつかめているので、個々に応じた下剤などの取り組みがほぼできている。又、散歩や運動をする事で自然排泄を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3~4回で入浴していただいている。特に汚染がひどい方などは頻回にその都度入浴していただいている。	毎日入浴できるよう準備を行い、一日に置き(週3~4回)の入浴を支援するとともに、汚染時には随時対応されている。入浴拒否時には声かけのタイミング等工夫し、入られると長湯になる等気持ちの良い入浴となっている。全員が湯船に入り、しょうぶ(子供の日)やゆず(冬至)湯等により楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時刻は設定していない、その方ひとりひとりのサイクルに合うようにしているので、皆様方よく眠られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はご利用者の命に直結する問題なので職員ひとりひとり自覚している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活にリズムをつける意味で「体操」「今月の歌」を皆様と決めていく。また、グラウンドでは散歩、季節の花見、野菜の収穫なども楽しみの一つにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わえるように、最低月一程度はドライブ、外出をしている。ご家族にも時折お願いしている。	日々の散歩や、買い物、家族の訪問時に入居者・家族と職員での外出、受診時後の家族とのドライブ等家族の協力も得て支援している。また、入居者の状況を見ながら外出を計画し、桜や紅葉狩り等に出かけている。	併設のグラウンドが日々の散歩や住民との交流(どんどや等)として生かされているとともに、協力的な家族の存在も外出支援に生かされており、今後も入居者の“出かけた”の思いが実現されるものと大いに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方が極めて少数なので買い物希望られるかたは外出時に一緒に買い物することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われる方には職員が付き添い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の温度管理や照明の明るさの度合いには気を配っている。季節の花等、飾るが異食される方もいるので難しさを感じる。	日中を過ごすリビングは、安全性や入居者の相性を考慮したテーブル配置として、ホームに居ながら季節の移ろいを見ることが出来る環境にある。異臭や外音も無く、温度管理を徹底し、菜園を眺めたり、廊下は歩行訓練の場となる等日々の暮らしの中心としたリビングで入居者が集い、職員の見守りの中で傾眠される様子も見られ、温もりあり環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの大きさや配置、気の合うお友達など、四六時中職員で思案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意思を尊重して、配置していただいているが、レイアウトでご本人にリスクが考えられる時には職員がアドバイスする場合がある。	入居に際し、ベッドとタンスが備わっていることを説明し、寝具は持ち込みとして、訪問時にシーツ交換をされる等家族の協力が得られ、担当職員により整理整頓が行き届いた居室である。電動ベッドのリース等身体状況により家族と連携しながら居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スプリンクラーおよび火災通報装置設置が済んでおり、より安心していただける空間にできている。		